

このコレクションは、昨年11月に鈴木三郎助氏（味の素株式会社名誉会長）から寄贈を受けたおもちゃ絵・絵双六です。総数は、おもちゃ絵89種、絵双六2種の計91種になります。ここでは、コレクションの大多数を占めるおもちゃ絵について、簡単ではありますが、その内容を述べたいと思います。

おもちゃ絵とは、多色刷り木版画の子ども用錦絵のことをいいます。江戸時代から明治時代に流行し、多種多様な題材のおもちゃ絵がつくられました。おもちゃ絵には、ハサミや小刀のような刃物で切り取り、細工して玩具・遊具として使用する細工用と、そのままの状態で見たり楽しんだり、学んだりする観賞・学習用のおもちゃ絵の系統があります。題材もさまざまなものがみられますが、鈴木コレクションでは、組立絵29種、物尽くし絵14種、遊び道具絵（十六むさし・百人一首・軍人合わせなど）8種、姉様・両面合せ絵6種、祭り絵6種、変り絵6種、千代紙3種、武者絵3種、擬人絵2種、面・顔遊び絵2種、影絵2種、教育絵2種、その他10種になっています。制作年代をみると、江戸時代3種、明治時代63種、不明25種になります。

興味深い資料としては、29種もの組立絵があげられます。組立絵は、組上げ、起し絵、立版古、切組燈籠絵などとも呼ばれ、一枚から複数枚を用いて、芝居、合戦場面、建物、風景など、何らかの情景を立体的に組み立てるおもちゃ絵です。コレクションには、おもちゃ絵の絵師として有名な長谷川小信（二代貞信）や小林幾英、「おもちゃ芳藤」として知られる歌川芳藤の作品が多く含まれています。また、中には9枚1組の組立絵もあります。もともと、切り取られてしまう運命にある組立絵であるため、このように揃いで残っていること自体貴重といえます。

当館では、今後資料のさらなる調査研究を進め、展示や教育活動に結び付けていきたいと考えていますので、コレクションの全貌はその機会に紹介いたします。

(かきざきひろたか／教育博物館准教授)



学校生徒体操鋳立之図
小林幾英（画）
和紙・木版色刷
大判3枚組
明治20（1887）年